

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第51期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)
【会社名】	株式会社サンドラッグ
【英訳名】	SUNDRUG CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤尾主哉
【本店の所在の場所】	東京都府中市若松町一丁目38番地の1
【電話番号】	042(369)6211(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 加藤好伸
【最寄りの連絡場所】	東京都府中市若松町一丁目38番地の1
【電話番号】	042(369)6211(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 加藤好伸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第50期 第3四半期 連結累計期間	第51期 第3四半期 連結累計期間	第50期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	307,175	331,046	407,401
経常利益	(百万円)	18,919	21,173	25,288
四半期(当期)純利益	(百万円)	11,244	12,624	14,955
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	11,232	12,643	14,973
純資産額	(百万円)	97,026	110,146	100,770
総資産額	(百万円)	165,087	181,480	168,073
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	178.41	200.32	237.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	178.41	200.31	237.29
自己資本比率	(%)	58.8	60.7	60.0

回次		第50期 第3四半期 連結会計期間	第51期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	63.87	69.18

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府等による経済・金融政策などにより、全般的な景況感は緩やかに改善しつつあるものの、海外景気の下振れリスクや消費税増税後の消費減退への懸念等があり、消費者の生活防衛意識は強く、個人消費等の先行きは不透明な厳しい状況となっております。

ドラッグストア業界におきましては、同業他社による積極的な出店や価格競争に加え、他業種からの参入も増加しつつあり、更に厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き、「安心・信頼・便利の提供」をキーワードに、お客様のニーズに応える質の高い出店やサービスレベルの向上、更にシステム統合によるグループ会社間の情報の共有化、物流拠点の移設による効率化、新業態の開発や積極的な店舗改装などに取り組み、活性化を図ってまいりました。

なお、平成25年10月1日付で連結子会社の㈱サンドラッグ東海を吸収合併し、更なる効率化を図りました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループ全体の出店などの状況は、フランチャイズ店2店舗を含め47店舗を新規出店し、4店舗のスクラップ&ビルドを実施いたしました。また、27店舗で改装を行い、12店舗を閉店し、フランチャイズ店で2店舗を解約し活性化を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の当社グループ全体の店舗数は、ドラッグストア事業743店舗（直営店561店舗、㈱星光堂薬局57店舗、㈱サンドラッグファーマシーズ20店舗、フランチャイズ店105店舗）、ディスカウントストア事業184店舗（ダイレックス㈱184店舗）の合計927店舗となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、連結売上高3,310億46百万円（前年同期比7.8%増）、連結営業利益207億3百万円（同11.8%増）、連結経常利益211億73百万円（同11.9%増）、連結四半期純利益126億24百万円（同12.3%増）となり、増収・増益となりました。

セグメント業績等の概要は次のとおりであります。

<ドラッグストア事業>

ドラッグストア事業は、下期に入り天候不順や風邪薬及び冬物雑貨などの季節商材の不調の影響で、既存店売上高は伸び悩みましたが、効率の販促への見直しなど、引き続き経費の削減に努めました。

なお、ドラッグストア事業の出店などの状況は、フランチャイズ店の新規契約2店舗を含め34店舗を新規出店し、2店舗のスクラップ&ビルドを実施したほか、20店舗を改装し10店舗の閉店とフランチャイズ店2店舗を解約し活性化を図りました。

以上の結果、ドラッグストア事業の売上高は2,495億35百万円（前年同期比5.9%増）、営業利益は169億24百万円（同6.0%増）となり、増収・増益となりました。

<ディスカウントストア事業>

ディスカウントストア事業は、ドラッグストア事業同様に冬物雑貨などに伸び悩みはありましたが、積極的に導入した医薬品等の売上拡大により粗利益の改善を図るとともに、販促の見直しなど経費の削減に努めました。

なお、ディスカウントストア事業の出店などの状況は、13店舗を新規出店し、2店舗のスクラップ&ビルドを実施したほか、7店舗の改装と2店舗（建替えによる）の閉店を実施し活性化を図りました。

以上の結果、ディスカウントストア事業の売上高は998億78百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益は37億78百万円（同48.7%増）となり、増収・増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ134億6百万円増加し、1,814億80百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加などによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ40億30百万円増加し、713億33百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加などによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ93億75百万円増加し、1,101億46百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント増加し、60.7%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	268,000,000
計	268,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	67,165,592	67,165,592	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	67,165,592	67,165,592		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	67,165,592	-	3,931	-	7,409

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,142,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,017,100	630,171	
単元未満株式	普通株式 6,192		
発行済株式総数	67,165,592		
総株主の議決権		630,171	

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社サンドラッグ	東京都府中市若松町一丁目38番地の1	4,142,300		4,142,300	6.17
計		4,142,300		4,142,300	6.17

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

代表取締役の異動

氏名	新役職名	旧役職名	異動年月日
才津 達郎	代表取締役会長	代表取締役社長	平成25年8月1日
赤尾 主哉	代表取締役社長	取締役管理本部長	平成25年8月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,221	39,503
売掛金	6,916	7,554
商品	50,953	52,564
原材料及び貯蔵品	52	58
その他	14,444	13,360
貸倒引当金	8	10
流動資産合計	101,579	113,031
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,477	24,469
その他(純額)	13,452	13,821
有形固定資産合計	36,929	38,291
無形固定資産		
のれん	746	447
その他	4,048	4,082
無形固定資産合計	4,794	4,529
投資その他の資産		
敷金及び保証金	14,781	15,308
その他	10,268	10,329
貸倒引当金	280	10
投資その他の資産合計	24,769	25,627
固定資産合計	66,494	68,448
資産合計	168,073	181,480

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,479	50,367
短期借入金	717	717
未払法人税等	5,514	3,485
役員賞与引当金	-	79
ポイント引当金	2,050	2,293
その他	9,131	9,305
流動負債合計	61,892	66,248
固定負債		
長期借入金	657	92
退職給付引当金	624	736
資産除去債務	2,025	2,160
その他	2,102	2,095
固定負債合計	5,410	5,085
負債合計	67,303	71,333
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,931	3,931
資本剰余金	7,409	7,409
利益剰余金	96,242	105,589
自己株式	3,602	3,602
株主資本合計	103,980	113,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	44	62
土地再評価差額金	3,263	3,263
その他の包括利益累計額合計	3,218	3,200
新株予約権	9	19
純資産合計	100,770	110,146
負債純資産合計	168,073	181,480

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	307,175	331,046
売上原価	235,089	252,805
売上総利益	72,085	78,240
販売費及び一般管理費	53,572	57,537
営業利益	18,512	20,703
営業外収益		
受取利息	82	89
受取配当金	6	5
固定資産受贈益	232	283
その他	100	100
営業外収益合計	421	479
営業外費用		
支払利息	12	7
その他	2	2
営業外費用合計	14	9
経常利益	18,919	21,173
特別利益		
受取保険金	47	-
受取和解金	17	-
受取補償金	-	50
その他	3	1
特別利益合計	69	52
特別損失		
固定資産除却損	227	134
賃貸借契約解約損	-	74
減損損失	26	48
その他	4	10
特別損失合計	259	268
税金等調整前四半期純利益	18,729	20,957
法人税等	7,485	8,333
少数株主損益調整前四半期純利益	11,244	12,624
四半期純利益	11,244	12,624

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	11,244	12,624
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	18
その他の包括利益合計	11	18
四半期包括利益	11,232	12,643
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,232	12,643
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
税金費用の計算	当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	3,460百万円	3,774百万円
のれんの償却額	379百万円	299百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,386	22	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	1,386	22	平成24年9月30日	平成24年12月12日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,638	26	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金
平成25年11月11日 取締役会	普通株式	1,638	26	平成25年9月30日	平成25年12月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	218,739	88,435	307,175	-	307,175
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,789	28	16,817	16,817	-
計	235,528	88,463	323,992	16,817	307,175
セグメント利益	15,964	2,541	18,506	6	18,512

(注)1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	231,198	99,847	331,046	-	331,046
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,337	30	18,367	18,367	-
計	249,535	99,878	349,413	18,367	331,046
セグメント利益	16,924	3,778	20,703	-	20,703

(注)1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	178円41銭	200円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	11,244	12,624
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	11,244	12,624
普通株式の期中平均株式数(株)	63,023,276	63,023,262
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	178円41銭	200円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	1,618	1,075
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2【その他】

(1) 平成25年11月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・ 1,638百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・ 26円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・平成25年12月12日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行っております。

(2) 公正取引委員会による立ち入り検査について

平成24年12月5日、当社子会社であるダイレックス株式会社は、独占禁止法違反(優越的地位の濫用)の疑いがあるとして公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。

公正取引委員会の調査は、現在継続中であり、現時点で当社の連結経営成績への影響の有無を予測するのは困難であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

株式会社サンドラッグ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 海 野 隆 善 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 種 村 隆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンドラッグの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サンドラッグ及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。